

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 6月 1日 更新

事務事業名		岳の河原作業道管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり			所属部	産業振興部	課長名	可徳 精至
	施策	9	みどりの景観の保全			所属課	農政課	担当者名	松岡 将司
	基本事業	24	山林の整備			所属班	農業振興班	(内線)	1165
予算科目		会計一般	款6	項2	目1	事業連番10201	法令根拠	菊池地域林業振興協議会会則 成果優先度評価結果：⑫ コスト削減優先度評価結果：⑥	
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	菊池市旭志麓にある合志市市有林「岳の河原」作業道の管理を行う。50年生から70年生の杉・ヒノキを有する岳の河原市有林を管理するために作業道を設置してあるが、大雨の度に管理道路が流され、管理に支障をきたさないように管理するようになった。年々、杉やヒノキが成長しており、H19、20で間伐を行った。
【業務の流れ】	全長L=1.8kmほどある作業道のうち、崩れやすかった半分近くはコンクリート舗装してあるので、残り900mほどの作業道の草刈及び崩れた場合の補修等の管理を行う。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	岳の河原市有林の巡視委託管理人より、安全に管理ができるという報告がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
草刈作業5、800㎡ 平成22年度より市有林保育事業に統合		
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 草刈を行う面積	㎡	
→ イ		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
岳の河原市有林道	→ ア 岳の河原市有林道面積	ha
	→ イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
岳の河原市有林道を良好に管理する	→ ア 作業道を良好に通れた割合	%
	→ イ	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		
菊池市旭志麓にある合志市市有林「岳の河原」での間伐・枝打ち等の保育事業や50年生から70年生の杉・ヒノキを管理（巡視）するために重要な作業道であるため、成果指標を「作業道を良好に通れた割合」と設定した。目標値については、事故等が発生しないよう良好に通れることが重要であるため割合100%をとした。		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア	㎡	5,800	5,800	5,800	5,800	0	0	0	
	イ									
② 対象指標	ア	ha	66	66	66	66	0	0	0	
	イ									
③ 成果指標	ア	%	100	100	100	100	0	0	0	
	イ									
投資 入費 量	事業 費	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	58	54					
	人件 費	(A) 事業費計	千円	58	54	0	0	0	0	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	3	3	3	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間	時間	154	154	154	0	0	0	0	0
		(B)人件費計	千円	616	612	612	0	0	0	
			千円	674	666	612	0	0	0	

事務事業名	岳の河原作業道管理事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	-------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 作業道の定期的な巡視及び下刈り作業により目標達成の見込みあり
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 今回の舗装工事で1.8kmのうちの0.9kmの舗装が完了した。未整備部分にも舗装が必要な箇所がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 近接する赤崩れ市有林に作業道路が完成したので、連携して管理を行う。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在草刈だけの最低必要予算を計上している。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 合志市市有林の管理業務全てを森林組合に指定管理すれば削減できる。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市有林であることから、市民、財産を守るのは市の責務でもあることから、行政が管理すべきである。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

作業道の草刈りを1回行った。通行被害や事故もなく、適正に管理できた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
						コスト																						
						削減	維持	増加																				
				成果	向上																							
					維持		○																					
低下																												
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												